

令和4年（2022年）10月28日

保護者の皆様
(家庭数)

吹田市立岸部第一小学校
校長 花田 郁子

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

晩秋の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の学校教育活動にご理解ご協力をいただき、お礼申し上げます。

さて、6年生を対象に、4月に「令和4年度 全国学力・学習状況調査」を実施しました。学力調査については「国語」「算数」「理科」の3教科で、学習状況調査については質問紙で実施され、すでに個人ごとの結果はお返ししています。

この調査結果は、6年生が自分の学習到達度を確認するだけでなく、学校全体の学力・学習状況を客観的に分析し、効果的な指導方法を検証し、指導方法の改善を図る資料としても活用していきます。

ご家庭でも以下の分析を参考に、今後の家庭学習を進めていただきますようお願いいたします。

なお、吹田市のホームページでも、今回実施した調査結果の概要を公表しております。併せてご覧ください。

1. 教科に関する調査の分析

1. 国語

①学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕の内容に基づく問題

言葉の特徴や使い方に関する事項 全国平均をやや下回った

- ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることはよくできていた。
- ・話し言葉と書き言葉との違いを理解することはできていた。

我が国の言語文化に関する事項 全国平均を下回った

- ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことに課題があった。

②学習指導要領に示されている〔思考力・判断力・表現力〕の内容に基づく問題

話すこと・聞くこと 全国平均を下回った

- ・必要なことを質問し、話し相手が伝えたいことや自分が伝えたいことの内容を捉えることに課題があった。
- ・相手の立場や意図を明確にしながら話し合い、自分の考えをまとめることに課題があった。

書くこと 全国平均をやや下回った

- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることはよくできていた。
- ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることに課題があった。

読むこと 全国平均とほぼ同じだった

- ・登場人物の気持ちや行動について、叙述を基に捉えることはよくできていた。
- ・登場人物の相関関係について、叙述を基に捉えたり、人物像や物語の全体像を想像したりすることには課題があった。

③課題に対しての指導改善について

○**話すこと・聞くこと**については、話し合いの中で自分の考えを発表するとき、異なる意見を自分の考えに生かして、例えば「～という意見もあったが、私は・・・」「～という考えもあるが、私は・・・」といった表現が使えるように指導する。

○**書くこと**については、お互いに書いた文章を読みあい、具体的な感想や意見を伝え合うことを通して良さを見つけたり、良さを言葉に表したりできるようにしていく。またそれを自分の表現にいかすことができるようにしていく。

○**読むこと**については、物語を読むとき登場人物の相関関係や心情がわかる描写や、読み手が想像できる描写に着目しながら読むように指導する。

2. 算数

①学習指導要領に示されている各領域の内容に基づく問題

数と計算 全国平均をやや下回った

- ・ 1050×4 、のように掛けられる数に0のある整数の掛け算はよくできていた。
- ・ 85×21 が1470より必ず大きくなることを判断するなど、示された場面で目的に合った数の仕方を考えることはよくできていた。
- ・二つの数の最小公倍数を求めることには課題があった。

図形 全国平均を下回った

・辺の長さや角の大きさ（図形を構成する要素）に着目して、三角形、ひし形の意味や性質、構成を理解して書くことはできていたが、長方形、平行四辺形については課題があった。

変化と関係 全国平均をやや下回った

- ・%で表された割合を分数で表すことはできていた。
- ・飲み物を二等分した場合のように数量が変わっても割合は変わらないことについての理解に課題があった。
- ・伴って変化する二つの数が比例関係にあることを用いて、未知の数を求めるやり方を記述することに課題があった。

データの活用 全国平均とほぼ同じだった

- ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して数を求めることはできていた。
- ・目的に応じた円グラフを選んで、必要な情報を読み取ることはできていた。
- ・データを基に目的に応じてデータの特徴を捉え考察することに課題があった。

③課題に対しての指導改善について

○**数と計算**では、日常生活で数の大きさを見積もる必要があるときに、目的に応じて大きくみたり小さくみたりして、概算できるように指導する。

○**図形**では、辺の長さや角の大きさに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えることができるように指導する。また、定規やコンパス、PCを用いた作図の仕方を筋道を立てて説明できるように指導する。

○**変化と関係**では、日常の場面に対応させながら割合について理解し、図形や式などを用いて基準量と比較量の関係を表すことができるように指導する。

○**データ活用**では、日常生活の問題を解決するために、データを収集し観点を決めて分類整理しデータの特徴や傾向に着目して考察できるように指導する。

○説明を求める問いかけ「どうやって解いたか」「なんでそう考えたのか」を意識的に増やし思考を説明したり文に表したりする機会を増やす。

3. 理科

①学習指導要領に示されている A 区分の領域の内容に基づく問題

エネルギーを柱とする領域 全国平均をやや下回った

- ・日光と的の温度について、実験の過程や得られた結果について適切に記録されたものを選ぶことはできていた。
- ・缶の色と水の温度変化の実験の結果（具体的な数値）や分析した内容に基づいて自分の考えを持ち、それを記述することはできていた。
- ・日光が直進するといった光の性質について理解することに課題があった。

粒子を柱とする領域 全国平均を下回った

- ・液体の体積を測るのに、メスシリンダーの目盛りの正しい読み方は理解していたが、器具の名前がメスシリンダーということを理解していない児童が半数以上だった。
- ・砂糖水を凍らせた物が水に沈んだという情報を、他者の気づきと自分の気づきの異なる点と共通する点を基に、問題を見出して記述することに課題があった。

②学習指導要領に示されている B 区分の領域の内容に基づく問題

生命を柱とする領域 全国平均をやや下回った

- ・昆虫の育ち方と食べ物を観察して得た結果を二次元の表に表し、気づいたことから問題に対して自分の考えを持つことはよくできていた。
- ・昆虫の体のつくりを理解して、ナナホシテントウが昆虫かどうか説明することに課題があった

地球を柱とする領域 全国平均をやや上下回った

- ・天気と気温の変化を観察した結果を基に、問題に対して自分の考えを記述することはよくできていた。
- ・冬の夜の気温の変化に対する他者の予想を基に、記録の結果を見通して、問題を解決するまでの道筋について考えをまとめることに課題があった。

③課題に対しての指導改善について

○自然に触れる体験活動の機会を増やし、身近な自然の事象や物事に興味を持たせるよう働きかける。

○日常生活で見かける昆虫や植物について、360度の視点から観察したり、拡大して細部まで調べたりしてみるなど、一人一台のタブレットを活用する。

○問題に対して結論を書くときに、観察や実験結果の具体的な数値や自分が気づいたことや他者の気づいたことを基に分析したことが根拠として書けるように指導する。

II. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【教科・学習に関する質問】

- ・国語の勉強は好きと回答した児童は56%、算数の勉強は好きと回答した児童は59%で全国平均とほぼ同じだった。理科の勉強は好きと回答した児童は79%と全国平均を大きく上回った。
- ・国語の問題で「解答を文で書く問題に最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童は46%と全国平均を大きく下回った。
- ・理科の授業では、予想を基に観察や実験の計画を立てていると回答した児童が56%、と全国平均を大きく上回った。

【基本的な生活習慣等の質問】

- ・毎日朝食をとっているかという問いに、全くとっていない、ほとんどとっていないと回答した児童は7.7%で、全国平均を上回った。
- ・一日当たりゲームをする時間が2時間以上と回答した児童が74%と全国平均を大きく上回った。また、SNSや動画を視聴する時間が2時間以上と回答した児童が41%と全国平均を上回った。
- ・平日、家ではほとんど読書をしないと回答した児童が36%で全国平均を上回った。
- ・学校が休みの日、家で勉強する時間は1時間以内と回答した児童は41%、全くしないと回答した児童は18%で、どちらも全国平均を上回った。

【挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感等の質問】

- ・自分には、良いところがある、と回答した児童は61.5%で、全国平均を大きく上回った。また、先生は自分のよいところを認めてくれていると回答した児童は56.4%で全国平均を上回った。
- ・難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか、という問いに挑戦していないと回答をした児童は、46%と全国平均を上回った

【改善と向上に向けて】

○**教科・学習**に関しては、授業を通して何ができるようになったのか、自らの成長を実感したり学んだことが社会とつながっていることを理解したりできるような授業づくりに取り組む。また、生活や社会の課題を、算数や理科の考え方を活用して解決できるような学習の場面を設定し算数や理科を身近に感じられるような授業づくりを行う。

○**基本的な生活習慣**に関しては、児童が自分で主体的に、規則正しい生活を心がけたり、計画的にICTを活用しようとしたりできる力を育成する。そのために、デジタルシティズンシップ教育の取り組みを充実させていく。

○**挑戦心・自己有用感等**に関しては、「セルフエスティーム」「日記や作文で伝える自分の気持ち読んで受け取る友達の気持ち」「もちあじ」の取り組みを更に充実させていく。